

第2回大阪皮膚真菌フォーラム

日時 >>> 2017年 2月 4日(土) 18:00~

場所 >>> エコルテホール

大阪市北区芝田1-16-1阪急電鉄株式会社本社ビル1F
(裏面地図参照)
TEL:06-6377-2100

情報提供 「 クレナフィン爪外用液 10% 」 科研製薬株式会社

【開会の辞】 大阪市立大学大学院 医学研究科 皮膚病態学 教授 鶴田 大輔 先生

【特別講演Ⅰ】 18:10~19:10

『 皮膚真菌症日常診療のバージョンアップ 』

座長

大阪市立大学大学院 医学研究科 皮膚病態学 教授 鶴田 大輔 先生

演者

楠原皮膚科医院 院長 楠原 正洋 先生

【特別講演Ⅱ】 19:10~20:10

『 考える皮膚病理 』

座長

大阪大学大学院 医学系研究科 皮膚科学教室 教授 片山 一郎 先生

演者

久留米大学 医学部 皮膚科学教室 准教授 大畑 千佳 先生

【閉会の辞】 大阪大学大学院 医学系研究科 皮膚科学教室 教授 片山 一郎 先生

* 尚、会終了後情報交換を予定しております。

主催：科研製薬株式会社



阪急電鉄本社エコルテホール
阪急梅田駅 茶屋町口改札を北へすぐ
ホテル阪急インターナショナルの隣

大阪市北区芝田1-16-1 阪急電鉄株式会社本社ビル1F

『 皮膚真菌症日常診療のバージョンアップ 』 楠原皮膚科医院 院長 楠原 正洋 先生

皮膚真菌症は皮膚科診療の中でも患者の割合も多く、決して無視できない分野である。大半を占める白癬、カンジダ症、マラセチア感染症はもとより、極まれに経験する深在性皮膚真菌症でもその診療に際しては、適切な真菌学的検査を行い確実な診断の元に治療を開始するのが基本である。ただし実際の診療では、治療に苦慮する場面にしばしば遭遇する。その場合相手となる病原真菌の性質やそれに対する治療薬の特性、患者側のいろいろな要因を察知して対応することで、難治と思われる症例にも効率良く治療効果が期待できる場合がある。医療は日々進歩しているが、皮膚真菌症の治療で最近の劇的な変化と言えば、エフィナコナゾールの外用薬が上市され、それまで内服薬の独壇場であった爪白癬治療に外用療法という新たな分野が確立されたことである。

『 考える皮膚病理 』 久留米大学 医学部 皮膚科学教室 准教授 大畑 千佳 先生

皮膚生検を行うのはどのような時でしょうか？臨床像から明らかでも診断確定のために行う場合もあれば、診察だけでは見当もつかないために行う場合もあるでしょう。学会発表を聞いたり論文を読んだりだけでは、難しい診断がいとまたやすかついたかのような印象を受けることがあります。実際には相当な回り道をして正しい診断にたどり着くこともままあります。今回、決して学会発表や論文では語られることのない舞台裏、<診断がわからず、考えに考えてようやく正解にたどり着いたケースを中心に>皮膚病理における思考過程についてお話したいと思います。鑑別診断の基本的な考え方についてもご理解いただきたいと思います。